

授業評価・授業研究報告

美術教育講座・福井一真

1 本授業について

本授業は平成22年度後学期の金曜日3限にある小学校教科科目の「初等図画工作」である。受講者は教育学12名、教育心理学9名、幼年教育7名、英語教育8名、聴覚言語8名、発達8名、その他の学年6名の計58名である。

2 授業の目的

本授業では制作活動を通して小学校図画工作科における学習指導に必要な子どもと共感する態度や造形力を身につけることを目的としている。それは、制作活動の中で感じる「楽しい」や「苦しい」、「驚き」などの自身の中で発せられる様々な「声」に素直に耳を傾け、表現することを楽しむ態度を培うことが、子どもと共感的に学ぶことにつながるからである。従って、本授業の到達目標を以下のように設定している。

(1) 造形にかかわる基本的な表現力や知識を身につける。

(2) 素材や道具に関心をもち適切に取り扱うことができる。

(3) 子どもと共感的な活動ができる態度を身につける。

3 授業を行う上での工夫

①鑑賞の時間

授業スケジュールは造形活動を中心に構成しているが、制作するだけでなく、鑑賞の時間を設け、学生どうして制作活動の振り返りを行うようにしている。「造形にかかわる基本的な表現力や知識」を獲得するには、個人の制作活動だけでは限界がある。しかし、鑑賞の時間の中で自身の作品を発表する機会を設けることで、改めて、活動の中で自分自身が営んできた行為について客観的に振り返ることができるようになる。また、他の学生の作品の発表をきくことは、自分自身が気づけなかった表現方法や考え方などを発見し、授業の中で獲得した表現方法や知識を学生全体で共有することにつながると考える。

②学習環境

与えられた課題をただこなすだけという受け身的な活動では、新たな気づきや発見、「子どもと共感的に学ぶ」態度や「素材や道具を適切に取り扱う」態度を身につけることはできない。従って造形活動は学生がすすんで取り組みやすい内容を提案することを心がけた。さらに、学生が主体的に活動に取り組める環境や雰囲気大切に、授業の時間の中で学生一人一人に声をかけ、活動の支援を行った。

③振り返り

初等図画工作では、小学校における図画工作科につながる授業内容が求められる。そこで、学生がただ作品を制作するというだけの授業内容に陥ってはならないと考え、毎回配布する「授業シート」に書き込む内容は、後に自分自身が振り返りを行えるように、授業での活動内容を記載することを指示した。ポートフォリオは自分自身が授業内容を振り返るためのものであるため、「みやすさ」や「授業のポイント」などを記述する工夫を学生に求めた。こうした振り返りの積み重ねが、自身の活動や行為を客観的に捉えることになり、子どもたちと共感的に学ぶ姿勢を育むのである。

4 授業アンケートの結果

授業アンケートは授業の最終日に実施した。アンケートは受講者数58名のうち、回答を得られた52名のものを参考にしている。アンケートは「ア」から「シ」までの計12問で、前半は授業全体について、中盤はポートフォリオに関する設問、後半は授業の良い点と改善点を自由に記述する内容で構成している。

「総合的にこの授業は満足だった」という設問に対して、「まあまああてはまる」と回答した学生が5名、「とてもあてはまる」と回答した学生が46名、無記入が1名であった。アンケートに回答した学生のほぼ100%が「満足」している結果となった。

また、「本授業の内容は教育実習や今後、教師にな

「あてはまらない」という設問に対しては「全くあてはまらない」が1名、「まあまああてはまる」が19名、「とてもあてはまる」が32名であった。「全くあてはまらない」と回答した学生は、図画工作科を教えることはないからという理由であった。多くの学生が、本授業が教師になってからも役に立つと回答しているのがわかる。

「ポートフォリオは授業理解の他にどのような場面で役に立ちましたか？(複数回答可)」という設問では「授業の予習」と回答した学生が3名、「授業の復習」が41名、「授業づくり」が10名、「その他」が8名、無記入が1名という結果であった。この結果からポートフォリオが、授業の復習や活動を振り返る際に活用されているものであることがわかった。

「総合的に判断して本授業を受講してよかったと思う点について記述してください」という自由記述の設問では52名中48名が何らかの回答を行っている。その中でも鑑賞の時間に関する以下のような記述をみることができた。

- ・自分の活動も楽しく良かったと思うが、他の人の作品を見て色々はアイデアをみんな持っていると感じて良かった。
- ・みんなで作品を鑑賞する時間があったのがよかった。みんなの作品をみることで自分の力になったと思う。
- ・作って終わりではなく、皆で作ったものを鑑賞することによっていろいろな表現があるということがわかってよかった。
- ・いろいろな人の作品をみることで1つの作品の見方も変わった。

(全文原文のまま)

鑑賞の時間を設けることで、新たな気づきや発見、視野の広がりなどを実感している学生がいることがわかり、授業の展開の方法としては良い結果が得られたように思う。

学習環境の点では以下のような感想を得ることができた。

- ・学習者の主体性を尊重した自由で、楽しい授業を毎回、受けることができた点
- ・みんな違ってみんないいという図画工作の原点を改めて再確認することができた点。
- ・図工を楽しんだ。

・毎時間楽しく活動ができた。自分が作った作品にちゃんとコメントして(ほめて)くれた。

(全文原文のまま)

この結果から、学生にとって取り組みやすい活動や雰囲気といった学生が主体的に活動に取り組めるような学習環境を提供できたといえる。

また、本授業では上述しているような3つの到達目標を掲げており、これに関する記述もいくつかみられた。

- ・制作を通して現場でつかえそうな知識を身につけることができた。(1)
- ・のこぎりの使用方法などあいまいだった点を知ることができた。(1)・(2)
- ・道具の使い方や注意点が聞けたこと。(2)
- ・実際に作業をすることを通して、子ども気持ちを考えることができたように思う。(3)
- ・自分が実際に作品をつくることで、子どもたちと一緒に作品を作っていく時にどうするかということも学べた。(3)

※()の数字は上記の到達目標の項目の番号であり、筆者による加筆であるが、他は全文原文のまま。

5 次年度への課題

アンケートでは「本授業の改善点について具体的に記述してください」という設問を設けている。本設問に回答した学生は11名いる。その中の主なものを以下に挙げる。

- ・長期的に取りかかるものを1つか2つにして、もっと色々な経験ができるようにしても良いと思います。
- ・授業外での作業が多少長くなりすぎてしまう。ポートフォリオを全部書く時間が授業中にはない。
- ・粘土がしたかった！
- ・制作する時間がもう少し欲しかった。
- ・ポートフォリオが成績の7割。

(全文原文のまま)

以上のことから授業スケジュールの再考(活動時間の設定や活動の種類を増やすなど)や毎時間の授業の構成、評価の方法などが課題としてあげられる。次年度ではここで記述された学生の声を加味した授業の構成をしていかなければならないと考える。